

メタバースに関する基礎的研究(2)

SNSアイコンの性格的印象とアイコン使用者の性格の差について

高木一・石田徹（株式会社ペンシル）・片岡祥（静岡福祉大学）

Introduction

- SNSは私たちの最大のコミュニケーション手段になっている
- カップルの出会いの場としてもSNSを模したオンライン環境は有効であるとされている（Michael J. Rosenfeld,2017）
- 現代において、あらゆる情報との接点はレコメンドされているものであり、その量は膨大である
- 私たちはその膨大な情報の中から、第一印象で得たい情報やコンテンツを決めている
- この傾向はSNS上でコミュニケーションを取る対象を選ぶ場面においても、波及していくことが考えられる
- Facebookを用いた研究ではプロフィールから 得られる印象と実際のBIG5の間には中程度の相関関係があることが分かっている（Mitja D. Back et al.,2010）
- レコメンドされることに慣れた上に、膨大な情報の中から選択しなければならない私たちが、毎回プロフィールを見て回ることは現実的ではない。



目的

SNSに使用されているアイコンから得られる印象のみで、相手のBIG5を推測できるのかについて明らかにすること

仮説

アイコン選択はある種の自己表現であるため、SNSのアイコンには、設定者の性格や価値観が反映されると考えられる。つまり、アイコンだけでもある程度BIG5を推測できるのではないか。

Method

- 17名の実験協力者（平均年齢：31.8歳,女性9名・男性8名）に対し、BIG5検査（Beatrice Rammstedt a, Oliver P. John,2007：5 件法）を実施。同時に普段SNSで使用している、プロフィールのアイコンを提供してもらった。
- 24名（平均年齢：31.4歳,女性6名・男性18名）の実験参加者に対し、1) で取得したアイコンを提示し、それぞれに対して、BIG5検査を基準に、アイコンの性格を推測してもらった。
- 3) 1) で得られたアイコン使用者のBIG5検査の得点と2) で推測されたBIG5検査の得点に対して、それぞれ1サンプルのt検定を実施した。

Result

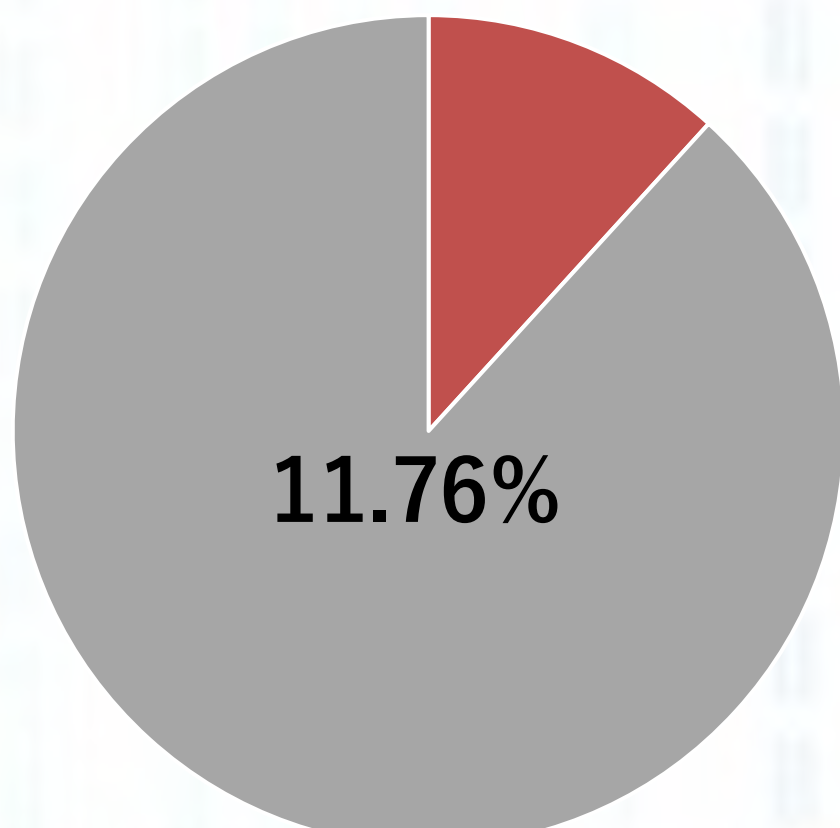
全てのアイコンの多くの項目において、基準得点と推測得点の間に有意な差が認められた。
つまりBIG5は正しく推測されなかったため、仮説は棄却された。

アイコン		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	
基準得点	外向性	1.50	3.00	0.50	0.50	1.00	0.50	2.00	3.00	3.50	0.50	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.50	1.00	
	協調性	2.50	3.00	2.50	3.50	3.00	3.50	2.50	1.00	4.00	3.00	2.00	3.50	2.50	3.00	3.00	2.00	3.00	
	誠実性	3.00	2.00	1.50	3.00	1.00	1.00	2.00	0.50	3.50	3.50	1.50	1.50	1.50	1.50	2.50	2.00	1.00	
	神経症質傾向	0.00	3.50	3.50	1.50	2.00	1.50	2.00	0.00	1.00	2.00	0.50	2.00	1.00	1.50	2.00	2.50	2.50	
	開放性	4.00	3.00	2.50	2.50	2.00	1.50	3.00	3.00	3.00	3.00	2.50	3.00	2.50	0.50	3.00	3.50	3.00	
推測得点	外向性	平均	1.21	1.98	2.88	2.00	1.40	2.25	1.63	2.25	2.06	1.52	2.52	1.81	2.13	1.94	2.04	1.83	2.23
		S.D.	0.71	0.63	0.65	0.75	0.97	0.74	0.85	0.49	0.85	0.84	0.84	1.22	0.84	0.95	0.61	0.89	0.83
		t値	2.02	7.89	17.99	9.77	2.01	11.63	2.16	7.51	8.28	5.95	2.79	4.76	5.12	5.49	7.74	9.15	7.22
		p値	0.05	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.04	0.00	0.00	0.00	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	協調性	平均	2.10	1.81	2.23	2.00	2.06	1.46	2.60	1.60	2.40	1.42	2.60	1.98	1.98	1.98	1.71	2.65	1.35
		S.D.	0.78	0.41	0.85	0.79	0.71	0.74	0.71	0.72	1.03	0.70	0.74	0.96	0.68	1.05	0.57	0.60	0.63
		t値	2.49	14.12	1.57	9.26	6.45	13.59	0.72	4.10	7.62	11.05	4.02	7.75	3.73	4.77	11.11	5.29	12.72
		p値	0.02	0.00	0.13	0.00	0.00	0.00	0.48	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	誠実性	平均	2.33	1.94	1.56	2.13	2.42	1.69	2.00	2.17	1.65	2.15	2.15	1.54	2.27	2.02	1.65	2.69	1.56
		S.D.	0.79	0.68	0.54	0.65	0.64	0.59	0.75	0.65	0.80	0.63	0.74	0.67	0.75	0.91	0.70	0.60	0.61
		t値	4.14	0.45	0.57	6.63	10.90	5.74	0.00	12.49	11.35	10.47	4.25	0.30	5.03	2.79	5.99	5.57	4.49
		p値	0.00	0.66	0.57	0.00	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.76	0.00	0.01	0.00	0.00	0.00
	神経症質傾向	平均	2.21	2.35	1.83	1.88	1.94	1.81	2.19	2.04	1.88	1.98	2.08	2.29	1.94	1.98	1.88	1.96	2.08
		S.D.	0.88	0.68	0.65	0.84	0.76	0.86	0.72	0.64	0.76	0.65	0.75	0.98	0.76	0.73	0.47	0.90	0.67
		t値	12.24	8.21	12.49	2.19	0.40	1.79	1.28	15.60	5.67	0.16	10.38	1.46	6.07	3.22	1.30	2.96	3.05
		p値	0.00	0.00	0.00	0.04	0.69	0.09	0.21	0.00	0.00	0.88	0.00	0.16	0.00	0.00	0.21	0.01	0.01
	開放性	平均	2.60	1.44	2.27	1.98	2.13	1.88	2.17	1.77	2.19	1.52	2.63	2.40	1.46	2.25	1.46	2.71	1.77
		S.D.	0.71	0.60	0.57	0.67	0.56	0.68	0.75	0.69	0.70	0.48	0.56	0.96	0.64	0.69	0.85	0.92	0.82
		t値	9.68	12.85	1.97	3.82	1.10	2.70	5.47	8.71	5.65	15.18	1.10	3.10	7.96	12.40	8.93	4.22	7.34
		p値	0.00	0.00	0.06	0.00	0.28	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.28	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

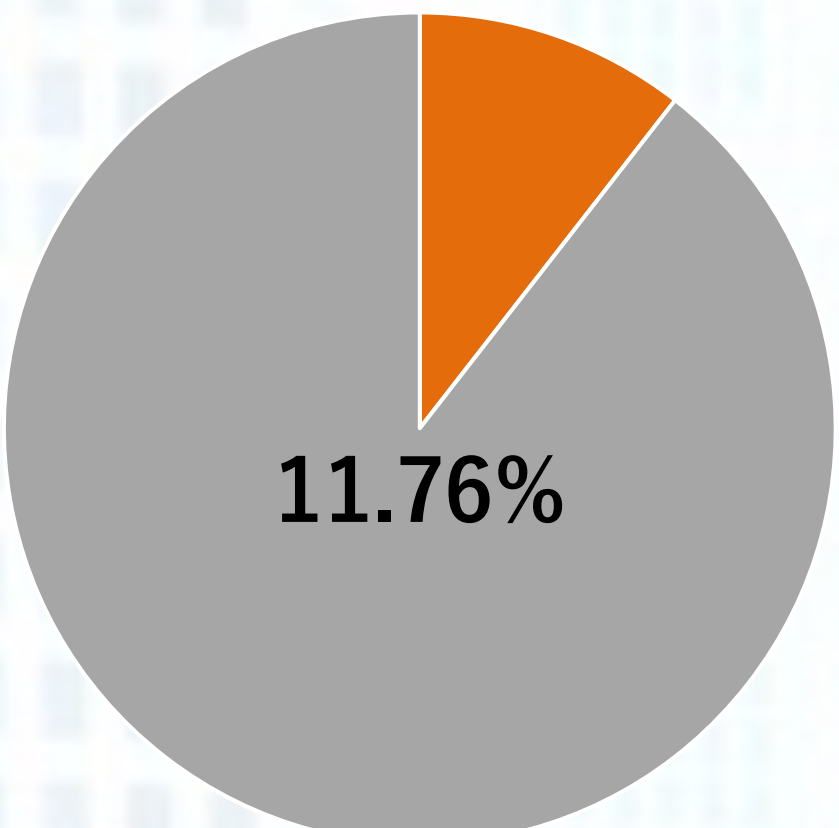
- 結果から -

アイコンだけで、BIG5の推測は難しいという結論に至ったが、外向性、協調性、誠実性、開放性に関しては1割~2割程度の一致率なのに対し、神経症質傾向は3割5部の一致率である。決して高い一致率ではないものの、BIG5の中では比較的アイコンから推測しやすい特徴である可能性が考えられる。この傾向が、人々が相手の神経症質傾向をそもそも高く推測しがちなのか、アイコン特有の結果なのか、使用したアイコンにヒントが隠されているのか…興味深い研究対象である。

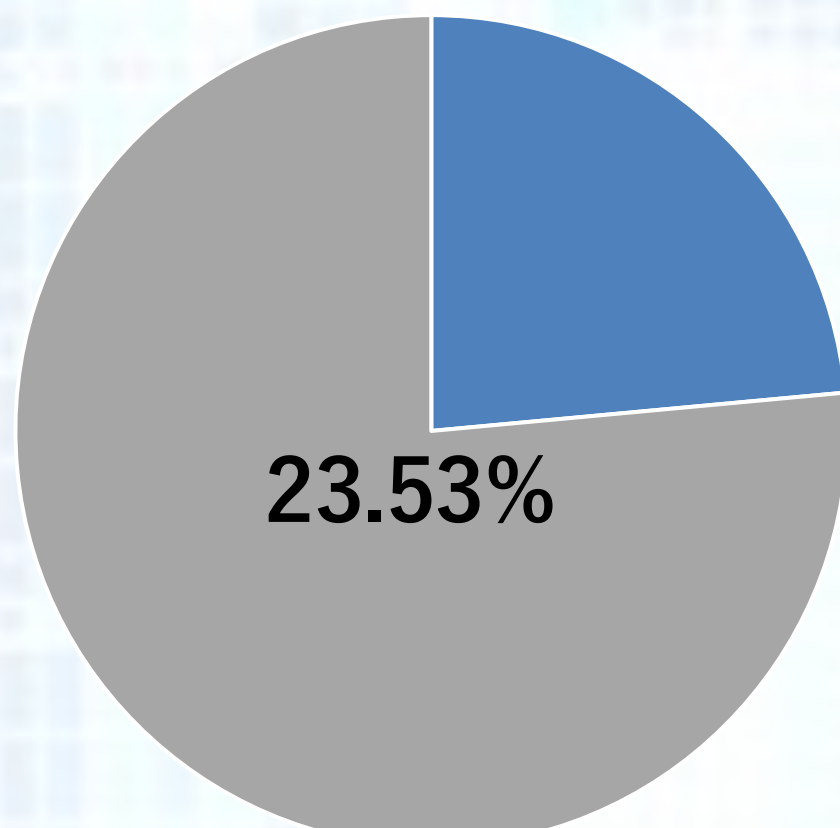
- 基準値と推測値の一致率（一致アイコン数 / 総アイコン数） -



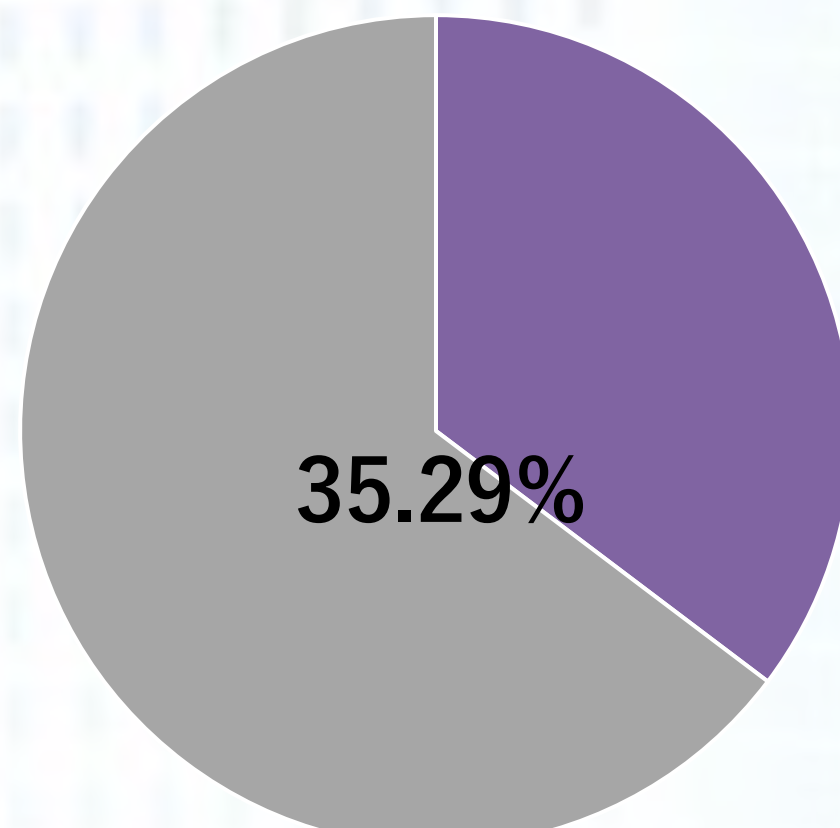
外向性



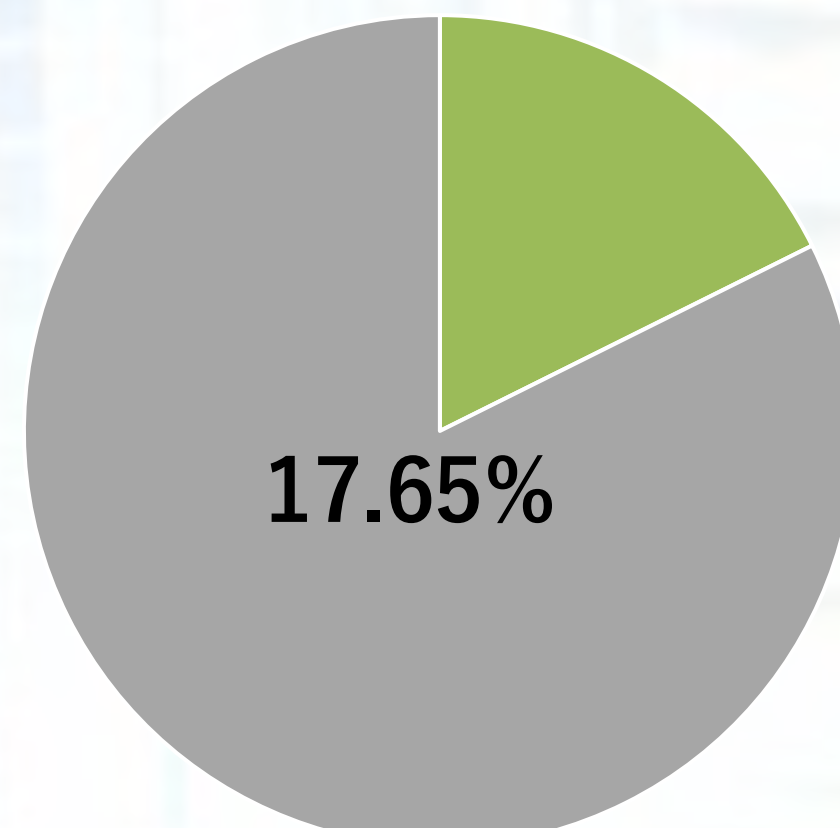
協調性



誠実性



神経症質傾向



開放性

Consideration

- アイコンに関しては世の中にある既存のものから選択しているため、うまく自己が反映されていなかったのかもしれない。これは短期的な判断や選択に関しては、性格だけでは予測できない（William Fleeson,2004）という先行研究とも矛盾しない。
- 生成AIなどを活用し、自分のアバターを作成してもらった場合は、プロフィール文章と同様に、より自己表現の材料が増えBIG5を推測しやすくなるかもしれない。
- アバターはアイコンと違い、選択ではなく作成という手段を取るため、性格特性によってアバターの要素に一定の法則性を見出せる可能性も考えられる。

今後の研究において、これらを明らかにしたい。

